

人新世を耕す

帯広畜産大学 筒木潔名誉教授

36

人類絶滅への警告 地層は活動の痕跡を刻む

本連載のタイトル「人新世」は日本種苗新聞が付け下さったものである。「人新世」という用語を提唱したのは1995年にオゾン層破壊の研究でノーベル賞を受賞したオランダのパウル・クルツェンとアメリカの生態学者のユージン・ストーマーである。

この用語を記述していた。この用語を地質学において定義するためには、いつをもって「人新世」の始まりとするかを取り決める必要がある。そのため国際層序委員会の第4紀層序小委員会のなかで議論が続けられている中で「われわれが生きている時代はもう完新世ではない、人新世だ」と叫んだ。これに先立ちストーマーは1980年にこの用語を記述していた。

「人新世」を「人間活動が地球の生態系や気候に重大な影響を及ぼしていく時代」とするならば、「人新世」は「ヤンガ・ドリアス期」にメソポタミアで起こっており「完新世」は「ヤンガ・ドリアス期」が終了した1万1700年前から始まっているので「完新世」

で議論が続けられている中で「われわれが生きている時代はもう完新世ではない、人新世だ」と叫んだ。これに先立ちストーマーは1980年にこの用語を記述していた。

農耕の開始は第四紀更新世最終期の「ヤンガ・ドリアス期」にメソポタミアで起こっており「完新世」は「ヤンガ・ド

りカの生態学者のユージン・ストーマーである。クルツェンは、メキシコで2000年に開かれた地球環境の変化に関する大型会議（IGBP）の開催で「われわれが生きている時代はもう完新世ではない、人新世だ」と叫んだ。これに先立ちストーマーは1980年にこの用語を記述していた。

「人新世」を「人間活動が地球の生態系や気候に重大な影響を及ぼしていく時代」とするならば、「人新世」は「ヤンガ・ドリアス期」が終了した1万1700年前から始まっているので「完新世」によって置き換えなくてはならなくなる。他にもコロンブスによ